

多数のムラサキイガイが生きたケフサイソガニの体の諸所に付着

原 竜也*・鳥越 兼治**・久保田 信***

Tatsuya HARA, Kenji TORIGOE and Shin KUBOTA: Many blue mussels attach to various body portions of a living *Hemigrapsus penicillatus*

はじめに

南西諸島を除く日本全国に分布するムラサキイガイ類 *Mytilus* は、通常は港湾の海表面付近の構造物などに群生するよく知られた二枚貝であり（久保田ほか, 1995）、わが国に定着した外来生物の代表である（日本プランクトン学会・ベントス学会, 2009）。今回、多数のムラサキイガイ *Mytilus galloprovincialis* が生きたケフサイソガニ *Hemigrapsus penicillatus* の諸所の体部位に付着していた稀少例が発見されたので報告する。

材料と方法

ケフサイソガニは、2006年6月24日の午後、広島市南区似島町字東大谷に所在する広島市似島臨海少年自然の家の前浜で発見された。この個体は、当日に実施された海岸生物の観察会の時に参加児童が採取したもので、多数のムラサキイガイの驚くべき付着に気付かれた。この個体はすぐに海水ホルマリンで固定・保存され、後日、ムラサキイガイ類を取り外さないで付着状況を検査した。

結 果

付着していたムラサキイガイはいずれも幼若個体で、前後軸長が9.6 mm以下で、雄個体のケフサイソガニ（最大甲幅25 mm）の諸所の体部位に付着がみられた（図1）。最多数のムラサキイガイの付着がみられたのは、右側の鉗脚から全ての歩脚の間の体側面で、少なくとも15個体が数えられた。次に多かったのが腹部の内側で、少なくとも12個体が付着していた（図2）。残りの体部位への付着は少数で、右眼窩に4個体（図3）、右側の第3顎脚と左眼窩に3個体ずつ、額域の腹側と左右の鉗脚の可動指と不動指の間に2個体ずつの、少なくとも計41個体もの幼貝が付着していた。

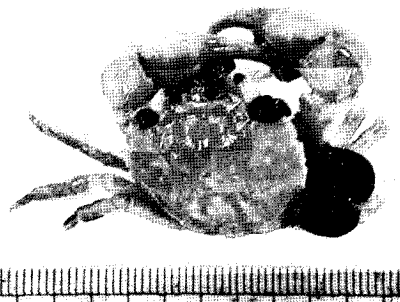


図1 多数のムラサキイガイの幼貝が付着したケフサイソガニ（固定標本を撮影）



図2 複数のムラサキイガイの幼貝が付着したケフサイソガニの腹部（図1のズームアップ）



図3 複数のムラサキイガイの幼貝が付着したケフサイソガニの右眼窩（図1のズームアップ）

* 〒730-8631 広島市中区広瀬北町9-1 （財）広島県環境保健協会環境生活センター環境保全課

** 〒739-8524 広島県東広島市鏡山1-1-1 広島大学教育学研究科

*** 〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町459 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所

考 察

このケフサイソガニは大きさからみて成体なので、脱皮を頻繁には行わない発育段階に達しており、何らかの理由で動けないような状況の時に、ムラサキイガイの幼生が体の諸所に付着し、短期間のうちにこのような特異な付着例となったものと推察される。とりわけ、生殖にも関わる腹部や視界を妨げる眼窩に付着したムラサキイガイが、小さいとはいえケフサイソガニが取り除くことができなかったのは生活に多少とも支障があったように推察される。しかし、上記のように50個体に近い多数のムラサキイガイが体のあちこちに付着していたにもかかわらず、ケフサイソガニは元気で生きており、衰弱している様子が採取時に見受けられなかったことや、ムラサキイガイが10 mmにも満たない小型のものばかりであったことから、このカニの生活に重大な影響を及ぼすほどの付着ではなかったと推察される。

これまでイソガニ類にムラサキイガイが付着した例として、神戸市沿岸で死亡漂流中の1個体のイソガニ *Hemigrapsus sanguineus* の腹部に複数個体の付着例が報告されている(丹羽ほか, 2001)。他のカニ類に付着生物が見られた例として、甲幅2.1 cmの若いモクズガニ *Eriocheir japonica* に3種のフジツボ類が25個体も付着した例をはじめ(山西, 1987)、ショウジンガニ類 *Plagusia* の2種に多様な付着生物が見られた報告(El-Bossery・久保田, 1998; 久保田・山口, 2000)や、チチュウカイミドリガニ *Carcinus aestuarii* の甲殻にマガキが付着した例(丹羽ほか, 2001)、および腹部にフクロムシが寄生したイワガニ *Pachygrapsus crassipes* にムラサキイガイが付着した特例がある(村岡, 1994)。これらの例から、カニの種類の相違や住処や動きのすばやさの違

いにもかかわらず、また鉗脚を用いたクリーニング効果もなく、ムラサキイガイなどの汚損生物が、様々な程度でカニ類の体のあちこちに付着する場合が稀に生じうるといえる。

謝 辞

貴重な情報をご教示下さいました田名瀬英朋氏、山田浩二氏、山西良平氏に深謝致します。

引 用 文 献

- El-BOSSERY, A. M.・久保田 信. 1998: 汚損動物が異例なまでに着生した和歌山県白浜産のショウジンガニ(十脚目, 短尾類, イワガニ科). 南紀生物, **40** (1), 121-122.
- 久保田 信・山本泰司・能崎不二夫. 1995: 桜島および屋久島で採集されたチレニアイガイ(二枚貝綱, イガイ目) - 本種の日本での分布南限地について -. 南紀生物, **37** (2), 121-122.
- ・山口寿之. 2000: 多数の蔓脚類が着生したイボショウジンガニ(節足動物門, 十脚類). 南紀生物, **42** (2), 147-148.
- 村岡健作. 1994: ムラサキイガイの付着したイワガニ. 神奈川自然誌資料, (15), 37-38.
- 日本プランクトン学会・ベントス学会. 2009: “海の外来生物 人間によって攪乱された地球の海”. 東海大学出版会, 東京.
- 丹羽信彰・佐名川洋之・小川壽太郎. 2001: 付着生物のついたカニ2例. *CANCER*, **10**, 23-24.
- 山西良平. 1987: フジツボだらけのモクズガニ. *Nature Study*, **33** (11), 表紙, 2.